

研究課題	要支援高齢者の重度化予防に関する研究 ―「質」が保証されたケアマネジメントモデルの構築に向けて―
支援番号	GC03520213
研究事業期間	令和3年4月1日から令和6年3月31日
助成金総額	779,000
研究代表者 (所属機関)	中井 良育 (藍野大学 医療保健学部看護学科)
研究分担者 (所属機関)	阿部 行宏 (山の下クリニック)、丸田 秋男 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、渡邊 敏文 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、河野 聖夫 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、佐藤 洋 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、鈴木 昭 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、青木 茂 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、渡邊 豊 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)、渡辺 恵 (新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)
研究キーワード	ケアマネジメント、QOL、介護予防、専門職の助言
研究実績 の概要	<p><b>【研究目的】</b> 本研究は、要支援者に着目し、チームケアに欠かせない多職種 of 専門的な視点や知見に基づく助言といった介入が、ケアマネジメントの質にどのような影響を与えるのかについて測定・検証し、介護の重度化の防止や、QOLの向上に資する専門性の高いケアマネジメントのあり方を提唱することを目的としている。専門職からの助言だけでなく、ソーシャルワーク専門職のコーディネート機能がケアマネジメントの質に与える影響を明らかにすることで、ケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議のあり方を提起ことに本研究の意義がある。さらに、要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態を改善に導き自立を促すことにつながるケアマネジメントモデルを示すことで、新潟市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画などの高齢者福祉行政における政策形成過程に貢献する重要な研究であると考えている。なお、研究は大学教員・医師で構成される5.に掲げる研究組織が行った。</p> <p><b>【研究の方法】</b> 研究期間は、2021年4月1日から2024年3月31日までの3年間とした。各年度の分析対象と方法は次のとおり。 初年度(2021年度)は、多職種の専門的な視点や知見に基づく助言を実施する新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会(以下「ケアプラン検討会」という。)のサポート機能及び介入の有効性について評価検証を行った。具体的には、ケアプラン検討会の36事例について、質的帰納的に2次分析を実施し、事例提供者への質問から助言者の視点、助言した内容からカテゴリーを抽出した。得られたカテゴリーをもとにアンケートを作成し、延べ216人の助言者を対象にアンケート調査を実施した。 2年目(2022年度)は、初年度の内容に加えてケアプラン検討会のサポート機能や、コーディネートについて検証した。具体的には2021年度にケアプラン検討会に参加した助言者(延べ354人)の自己評価、助言に対する事例提供者(延べ177人)、行政担当者(延べ59人)によるコーディネート機能の評価についてアンケート調査を実施した。 3年目(2023年度)は、過去2ヵ年の研究で明らかになった結果の精査及び補足するデータ収集及び分析、新たなケアマネジメントモデルの検討を行った。具体的には、2021年度及び2022年度に実施したケアプラン検討会に参加した助言者(延べ858人)の自己評価、助言に</p>

対する事例提供者（延べ 286 人）、行政担当者（延べ 143 人）によるコーディネート機能の評価、ケアプラン検討会で検討された事例評価（73 事例）についてアンケート調査を実施した。

**【研究結果】**

研究の結果、高齢者福祉行政における地域ケア会議のあり方について、次の 2 つが重要であることを示した。第 1 に、専門職からの助言を受ける機会である。事例提供者のケアプランに対する方向性を明らかにするため、助言者は医療的な視点に偏らず、生活の視点を意識した内容の助言を行う必要がある。特に、本人の役割や生きがいを引き出すための助言、本人や家族の意向を踏まえた助言は、QOL 向上に資するケアマネジメントに重要となる。また、事例提供者は目標を支援するためのポイント及び目標を阻害する要因について、予め課題等を整理しておくことで効果が高まることや、本人の意思（エンパワメント）の実現を意識することは、QOL 向上に資するケアマネジメントに繋がることを示された。

第 2 に、地域ケア会議の効果を高めるためのコーディネート機能である。助言者から QOL 向上に向けた助言を引き出すためには、ICF の視点、ソーシャルワークの視点で助言を促し、議論を活性化させることが重要となる。特にソーシャルワークの視点からのコーディネートは、事例提供者のニーズ把握や、ニーズを充足するための議論を促し、QOL 向上に資するケアマネジメントに繋がることを示された。